

特集：社会保障

【社会保障】

かつては社会保険と呼ばれ、何らかの困難に直面した時の安心材料を提供してくれます。その財源となるのは、給与から天引きされることの多い保険料や税金で賄われています。しかも、現状のコロナ禍においては、給付金などの支給で生活を継続されている方も多いと思います。そのような社会保障について解説した書籍を集めてみましたので、参考にしてみてください。



[書籍の紹介]

★よくわかる社会保障 第5版 坂口 正之・岡田 忠克 【編】

(やわらかアカデミズム・わかる) シリーズ) ミネルヴァ書房 (2018.5) 364/330

社会保障とは、資本主義経済による貧困の発生を背景に、労働者保護を目的とした社会保険制度の制定によって成立した福祉国家の登場にさかのぼります。以来、先進諸国は社会保障制度を充実させ、福祉国家の構築を目指すようになりました。しかし、オイルショックの財政赤字の増大により、その社会保障制度の構築にも陰りがみえます。どのようにしてこれから、社会保障制度を充実させていくのでしょうか。社会保障制度の歩み、現状を紹介しながら理解を深めていきます。

★社会保障法 黒田有志弥・柴田 洋二郎・島村 暁代・永野 仁美・橋爪 幸代

(有斐閣スタジオ) 有斐閣 (2019.7) 364/341

社会保障法は、私たちが生きていくうえに関係する法律です。長い人生の中で、みなさんや身近な人たちが、何らかの困難に直面した時に、安心材料を提供してくれます。今、少子高齢化の社会となり、その社会保障を支える財源の負担（税金や保険料）も増えています。医療保障、年金制度、労災補償、雇用保険、介護保険、社会福祉・社会手当、第二のセーフティネット、生活保護の7章で、社会保障法の全体像を紹介します。

★病気やケガで働けなくなったときに知っておきたい「制度」と「お金」

脇 美由紀 ビジネス教育出版社 (2018.1) 364/333

病気になったり、大きなケガを負ったりしたとき、思わぬ出費がかさむことがあります。時には、収入も途絶えて生活が不安定になります。このような事態に備えるため、公的な医療保険制度があります。健康保険は、そのひとつです。仕事以外の病気やケガが、健康保険の適応になります。一方、業務上や通勤途中の病気やケガの場合には、労災保険が適用され給付されます。これ以外にも、働けなくなった時に、労働者には様々な制度があります。本書は、それらの利用できる制度について解説します。



★雇用保険制度の実務解説 改訂第10版 労働新聞社【編】 労働新聞社 (2019.1) 364/342

雇用保険制度は、それまでの失業保険制度に代わり、雇用に関する総合的な機能を持った制度として1975年に発足しました。その後も改正を加えて、今日までわが国の高い雇用水準を維持し、失業の予防、雇用構造の改革、労働者の能力開発及び向上、および、労働者の福祉増進など、雇用・失業対策の重要な柱として機能してきました。この雇用保険制度全般について、わかりやすく解説します。

★これならわかる〈スッキリ図解〉障害年金 松山 純子 翔泳社 (2017.2) 364/340

私たちが支払っている、国民年金や厚生年金の保険料の中には、ある一定の年齢になると受給できる「老齢年金」、大切な家族が亡くなったときに受給できる「遺族年金」、さらに、病気やケガで働くことが難しくなった時に受給できる「障害年金」の3つの保障が含まれています。ただ、公的年金の中でも「障害年金」の認知度は、他に比べて少ないようです。無理せずに、体調に合わせて働くことができ、治療にも専念しながら、一定の保障が受けられる障害年金についての情報を紹介します。

★障害年金をもらいながら働く方法を考えてみませんか? 改訂版 ー障害者の“不安”を

“安心”に変える本ー 松山 純子 日本法令 (2016.9) 364/339

障害保険とは、障害のために仕事や日常生活に支障がある場合に、その生活費の一部を国が保障してくれる制度です。長年、障害年金を専門にしてきた社会保険労務士の著者が、障害年金受給と働き方を指南します。長く働き続けるよう、「働く」ことにスポットを当てて、利用できるものは利用し、安心して働けるように紹介していきます。

★ベーシックインカム ー国家は貧困問題を解決できるかー 原田 泰

(中公新書 2307) 中央公論新社 (2015.2) 364/306

今の日本では、富の格差拡大と貧困の深刻化が大きな問題になっています。しかしながら、巨額の財政赤字に加えて、増税や年金・医療・介護費の削減にも反対論は根強く、社会保障の拡充は難しいのが現状です。そもそも、お金のない人を助けるには、お金を配ればよいのではないか…この単純明快な発想から生まれたのが、すべての人に基礎的な所得を給付するという「ベーシックインカム」です。この実現性について語ります。

★AI時代の新・ベーシックインカム論 井上 智洋 (光文社新書 940) 光文社 (2014.4) 364/332

近年、欧州では、ベーシックインカム導入をめぐる、活発に議論がされています。主な理由として、格差の拡大や貧困の増大を改善する手段としての期待、人工知能(AI)やロボットが多くの人々の雇用を奪うのではないかと予想があります。日本での可能性はどうか、財源どうするのか、AI時代にベーシックインカムは必要なのか、最大の障壁となるのは何か、などAIと経済学の関係を研究する著者が様々な問題を掘り下げます。

★社会保障統計年報 平成31年版 国立社会保障・人口問題研究所 編 法研 (2019.4) 364/1/40

この年報は、わが国の社会保障制度を知るためによく参照される、概要と大系、社会保障の費用、財源、国民負担率に関する文献やWebサイトの紹介を巻頭に収め、さらに諸外国の社会保障制度を知る主な情報源も載せています。第2部の資料編には、社会保障給付及び再配分効果、社会保険関係、高齢者保健福祉、医療給付と医療費、公衆衛生、福祉サービス、生活保護などの個々のデータ表を収めています。